

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年12月14日

協議会名:	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東海市内には、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅と知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市と太田川駅を連絡する独自路線バス(上野台線・横須賀線)により、東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらに対し、市内の各拠点及び公共施設や住宅地域を結びながら東西・南北の公共交通基幹軸を地域的に補完し、地域内フィーダー交通という形で、循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。</p> <p>地域内フィーダーである循環バスの状況としては平成28年8月から実施している高齢者外出促進事業の影響が大きく、平成28年度(H28.4~H29.3)中の乗車人数は、前年度から4万9千人大幅に増加した。また、平成25年度に実施したバス利用者及び市民アンケートでは、市民の82パーセントがバス交通は必要であると回答している。しかし、地域間幹線系統である横須賀線については、沿線にある高校生の利用減少等の理由から収益が伸び悩み、平成28年度(H28.4~H29.3)には一部路線が廃止となり、路線維持が難しくなっており、喫緊の課題となっている。</p> <p>本市の中心的交通結節拠点である太田川駅周辺には、東海市芸術劇場のような大型文化施設を始め、大学、商業施設なども整備されています。また、こうした施設に訪れる人だけではなく、2027年のリニア中央新幹線の開通にあわせて、新たな人の動きも生まれ、より一層の「にぎわい」が創出されることも予想される。</p> <p>バス交通については、今後も多くの人口流入が予想される本市にとって重要な公共交通であるため、今後も、平成27年度に策定した東海市地域公共交通網形成計画を推進しながら、利用者の利便性向上を図り、さらなる持続可能な公共交通体系の構築を目指しているところである。</p>